

議事の経過

発言者	議題・発言内容・決定事項
司会（市長政策室長）	<p>皆様、こんにちは。 本日はお忙しい中、またお寒い中ご出席を賜り、誠にありがとうございます。 只今から、令和4年度第2回上尾市総合教育会議を開会させていただきます。私は本日の進行を務めさせていただきます、市長政策室長の柳下と申します。どうぞよろしく願いいたします。 それでは初めに、本会議の設置者であります畠山市長から挨拶を申し上げます。</p>
市長	<p>教育委員の皆様には、日々、上尾の教育の発展のためにご尽力を賜りまして感謝申し上げます。 先日は、文化センターにおいて二十歳のつどいが開催されました。これまで成人式という名称で親しまれてきた式典でございましたけれども、成人年齢が18歳に引き下げられたことを受け、名称を改め、初めての開催となりました。 実行委員会や教育委員会の皆様のご尽力、ご協力によりまして、当日は大過もなく、二十歳を迎えられた皆さんの笑顔や立派な姿を見ることができ、とても頼もしく感じるとともに、私も大変嬉しく感じました。 さて、前回は英語教育と部活動の地域移行についてを議題として、現状や課題、今後の方向性などに関し、皆様と意見交換をさせていただきました。部活動の地域移行に関しては、県とメディックスの協力を得てモデル事業も始まったところです。前回、多くの課題について皆さんと認識を共有しましたが、今回の試みを通し、成果や課題を分析し、今後の取り組みに活かしていただければと思います。 また、本日は「ウィズコロナにおける本市の学校教育について」を議題としております。 新型コロナウイルスの感染が国内で初めて確認されてから約3年が経過し、この間、社会経済活動をはじめ、私たちの生活はそれまでには想像もできないほど、大きく変化しています。 学校教育の現場においても様々な変化を余儀なくされ、先生方は感染防止対策を講じながら、日々、子どもたちと向き合い、対応していただいていることに、この場をお借りして御礼申し上げます。 一方で、コロナ禍の生活が長期化することで、子どもたちにも様々な影響が生じていると推察されます。 本日は、これまでの取り組みや現状を振り返るとともに、今後の取り組みやあり方などについて忌憚のない意見交換ができればと考えておりますので、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。 私からは以上でございます。</p>

<p>司会（市長政策室長）</p>	<p>ありがとうございました。 それでは、早速ですが、要綱の定めにより議事を進行させていただきます。皆様のご協力をお願い申し上げます。 はじめに、本会議の公開についてでございますが、本会議は原則公開となっております。本日、傍聴を希望される方はいらっしゃいますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>本日、傍聴者はありません。</p>
<p>司会（市長政策室長）</p>	<p>事務局から傍聴者なしとの報告がありましたので、会議を続行いたします。それでは、議題1「ウイズコロナにおける本市の学校教育について」でございます。 本日の議題は、昨年11月に開催いたしました第1回目の総合教育会議において、市長の方から全国の不登校児童生徒の増加に関する報道を受けて、コロナ禍で様々な活動が制限され、人と人との関りの機会が減少することによる学校活動への影響などについてご発言がございましたこともあり議題とさせていただきます。 先週末には、国において新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけを現在の「2類相当」から「5類」に引き下げる方向で検討を進めるという、国として大きな方針転換となる報道もございました。今後の国の議論を見守る必要はございますが、これまでの取組や現状、課題などを共有し、意見交換ができればと考えております。 それでは、教育委員会事務局の説明に入ります前に、上尾市全体としてのこれまでの市内の新型コロナウイルス感染症新規陽性者数の状況について、簡単にご報告させていただきたいと思っております。 資料をご覧ください。上尾市内で新型コロナウイルス感染症の陽性者がはじめて確認されたのは令和2年3月になります。以降、3度の緊急事態宣言、まん延防止等重点措置などを経るなど、感染の拡大と収束を繰り返し、もう間もなく3年が経過しようとしています。 当時の安倍総理が発表した全国一斉の学校休校などがあった令和2年は、市内での感染者は約300人でした。令和3年には約3千人、令和4年は全数届出が見直される前の9月末までで3万人を超える方の感染が確認されている状況でございます。 現在は、昨年11月以降の感染拡大が続く第8波として、市内で既に1万7千人を超える方の感染が確認され、季節性インフルエンザとの同時流行の拡大も懸念されているところでございます。 右上に参考として、これまでの発生件数を累計した数字のべ5万4千人と記載していますがけれども、見方を変えますと市民の4人に1人の方が感染している計算となります。 市民の皆様や事業者の皆様には、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、ワクチン接種や各種の感染防止対策にご協力をいただいておりますが、先ほど市長の挨拶にもありましたとおり、コロナ禍前と比べますと、様々な制約を余儀なくされており、これは学校現場においても例外ではございません。 これまでの休校等の状況、感染防止対策などの学校現場での取組</p>

教委事務局(学校教育部長)

み、また、全てがコロナ禍による影響とは言えるものではありませんが、不登校児童生徒が増えているという報道もありますので、そのあたりの本市の状況などもあわせて、ご説明をいただければと思います。それでは、教育委員会事務局から報告をお願いいたします。

学校教育部でございます。それでは、市内小中学校の感染状況や学校における感染対策、また、教育活動についてご説明いたします。

はじめに、資料1をご覧ください。市内小中学校における感染者数と学級閉鎖等の状況でございます。こちらは、令和2年度から令和4年度まで、月別に児童生徒、教職員の感染状況、学級閉鎖等を表に示したものでございます。令和2年度の4月、5月は、国等の通知に基づき令和2年3月2日から5月31日まで一斉臨時休校を実施いたしました。その後6月に学校を再開していきませんが、児童生徒、教職員の感染につきましては、7月に児童1人が感染し、当該小学校が学校閉鎖となりました。令和2年8月以降は、本市の感染状況と同様にいったん落ち着きますが、本市全体の感染者の状況と同様、1月に増加しました。令和3年度に入り、第5波の7月から9月、さらに年明けの1月以降の第6波に入りますと、一気に感染者数が増加し、同時に学級閉鎖なども増加いたしました。

令和4年度もその傾向は変わらず、感染者数は下げ止まりの状態が続きます。7月からの第7波では、本市同様に、学校でも感染が急増しましたが、間もなく夏休みに入ったことから、学級閉鎖の数は増えておりせん。2学期では、第8波の影響で感染者数は高水準となり、3学期以降も同様の状態が続くことが予想されます。

なお、学級閉鎖等の基準につきましては、令和2年度当初からは保健所の指示に基づき判断しておりましたが、令和3年度9月からは、文部科学省の通知により、同一学級内に2名の陽性者がいた場合、また、陽性者が1名であっても体調不良者が複数いるか、複数の濃厚接触者相当の者がいる場合に5日間程度の閉鎖を行うこととなりました。

その後、令和4年度10月に閉鎖の基準が見直され、現在は21人以上の学級においては陽性者や体調不良者が10%以上の場合、20人以下の学級においては2名の陽性者又は陽性者1名で体調不良者が複数いる場合は、5日間の学級閉鎖とすることとなりました。

資料2をご覧ください。学校内における感染対策として、その対策の様子を写真で示したものでございます。校内あらゆる場所において、手指消毒液を置いたり、二酸化炭素モニターを利用しながら換気の徹底をしたり、教室の出入りを一方通行にしたりするなど対策を講じており、現在も継続しております。

次にコロナ禍における学校の教育活動につきまして、ご説明いたします。

資料4 コロナ禍における学校行事等の実施状況をお願いします。上段「市内一斉の臨時休校・日課短縮等」の欄をご覧ください。

令和元年度末の3月2日から始まった臨時休校は、令和2年度に入っても続き、5月30日までとなり、その後、6月1日から11日ま

での期間は、分散登校を実施いたしました。学校の再開にあたっては、生徒下校後の校内の消毒時間や、臨時休校後の授業時数を確保するため、授業1時間を小学校は40分授業に、中学校は45分授業とし、夏季休業期間も8月1日から8月17日までと短縮いたしました。

また、土曜授業を6月、7月に2日ずつ計4日実施いたしました。さらに、必要に応じて7時間授業を実施した学校もございました。

令和3年度は、第5波による緊急事態宣言に伴い、夏季休業明けの8月25日から、小学校は9月30日まで、中学校は9月12日までの期間、午前日課といたしました。また、9月をAGEOオンライントライアル期間とし、午前日課の日の午後は各校でオンライン学習を試行することといたしました。この取組により各校でICT端末を使った学習指導が急速に進むこととなりました。

令和4年度におきましては、現在まで市内一斉の臨時休校や日課短縮等の措置はございません。

このような中での学校の様子ですが、資料3の写真をご覧ください。学校では新しい生活様式のもとで、感染症拡大防止に配慮した活動が行われています。写真はその一部でございますが、授業においては、活動場所の換気を十分に行うとともに、空間に余裕のある場所での授業や、ペアやグループ学習での机の配置の工夫など、感染拡大防止に努めながら実施しております。また、登校できない児童生徒へのオンラインによる授業配信も日常的に行われてきております。

さらに、校内各所において、感染予防や感染拡大防止のためのゾーニング表示や感染予防のポスターを掲示するなど、啓発の取組も工夫しております。

次に、コロナ禍における主な学校行事等の実施状況でございます。再び資料4をご覧ください。

市主催行事等につきましては、上尾市中学校海外派遣事業、イングリッシュキャンプ、上尾市中学校社会体験チャレンジ事業は、今年度まで中止となっておりますが、上尾市中学校英語弁論大会、上尾市小中学校音楽会、上尾市小学校陸上競技大会、中学校の運動部活動の大会や吹奏楽コンクールは、実施方法の工夫や保護者参観の制限をしながら段階的に実施しております。

学校行事につきまして、体育的行事の運動会・体育祭は、時間の短縮や感染予防に配慮した種目設定、小学校において学年別またはブロック別で実施するなどの工夫をしております。

文化的行事の合唱祭・音楽会は、学年別またはブロック別で実施しております。また、その際、他学年の発表を教室でオンラインにて視聴するといった工夫をしている学校もございます。

なお、これらの行事の保護者の参観につきましては、1家庭の人数制限や入替制で行っております。

次に、旅行・集団宿泊的行事である修学旅行や林間学校などにつきましては、令和2年度はすべて中止となりました。

令和3年度は、延期等の対応をしながら多くの学校においては、実施できましたが、一部で中止、代替で日帰り校外学習の実施、次年度実施とした学校もございました。

	<p>今年度におきましては、現在、全ての学校で実施できております。</p> <p>最後に儀式的行事である入学式及び卒業証書授与式につきまして、令和2年度の入学式は、臨時休校に伴い中止となりましたが、それ以降につきましては、感染症拡大防止対策に努めつつ、時間短縮や保護者の出席者数の制限をしながら実施しております。</p> <p>なお、在校生・来賓の出席につきましては、令和3年度卒業証書授与式以降、感染拡大状況及び学校規模等を考慮しながら各校で判断をしております。</p> <p>以上が、コロナ禍における学校行事等の実施状況でございます。</p> <p>続きまして、コロナ禍の上尾市立小中学校における不登校児童生徒数の状況につきましてご説明いたします。資料5をご覧ください。</p> <p>こちらは、30日以上長期欠席者の平成28年度から令和3年度までの推移を小・中学校別に示したものでございます。グラフから長期欠席者数は、小中学校ともに全体として増加傾向であるということが分かります。その中で令和2年度につきましては、4月、5月が臨時休校であったため、他の年度と比較して低い数字となっており、これが想定されます。</p> <p>そのことを踏まえまして、不登校に注目してみますと、令和2年度から令和3年度にかけて、小学校では44名から87名とほぼ倍増、中学校では209名から257名と大きく増加している状況でございます。こうした状況を受けまして、本市といたしましては、今年度から教育委員会の附属機関として上尾市不登校対策推進協議会を設置し、不登校対策についての協議をしているところでございます。</p> <p>学校教育部からの説明は以上でございます。</p>
<p>司会（市長政策室長）</p>	<p>ありがとうございました。ひと通り説明がありました。児童生徒の感染や学級閉鎖の状況、また、感染防止対策や学校行事の対応、さらにコロナ禍による影響だけによるものとは断言できないものの、この間の児童生徒の長期欠席の状況などについてご説明がありました。</p> <p>それでは、ここからは意見交換をお願いしたいと思います。只今ご説明いただきました内容は多岐に渡りますので、まずは、感染防止の観点からの学校における対応などについてご意見を伺えればと思います。市長いかがでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>3年間を振り返ると様々な取組があり、子どもたちもいろいろな影響を受けていると改めて感じました。先ほど説明がありましてとおり、上尾市内で1人目の感染者が確認されたのは令和2年3月ということで、埼玉県が公表した6例目として、県内でも早い段階で上尾市内での発生ということもあり、当時は、本当に大きな衝撃をもって受け止めたのを記憶しております。</p> <p>学校現場では、国による学校の一斉休校や再開後の土曜日の学校活動、分散登校やタブレット端末を活用した自宅学習などもありました。また、学校活動の再開後は、私も学校に行く機会も多々ありますが、冒頭のあいさつでも申し上げたとおり、現場の先生方は様々な工夫を凝らしながら、クラスターを発生させない、感染を広げることがない</p>

	<p>ようと、日々、工夫をされながら、また、注意を払いながら対応していただいていることはよく目にしています。その点について改めて感謝申し上げたいと思います。</p> <p>活動面では、緊急事態宣言や国による対処方針に従い、多くの学校行事が中止や見直しを余儀なくされ、今年度においてもコロナの感染状況を見極めながら対応していただいている点は説明のあったとおりでございます。</p> <p>前回の総合教育会議で、教育委員の皆さんと英語を実際に話す機会の提供という話をしました。学校行事も同様です。子どもたちが9年間の義務教育を受ける限られた期間の中で、各種学校行事を通して経験することは、子どもたちにとって大変貴重な経験で、それにより自分の長所や短所を発見したり、将来に向けての夢や可能性を広げたりと、通常の学びでは得られない効果があると思います。感染防止対策を理由に、中止や縮小することは簡単です。コロナをきっかけとして、いろいろと見直すことは良い部分もあるかもしれません。とはいえ、子どもたちの可能性を狭めるようなことがあってならないと思っています。必ずしも全てを従前の通りに戻すことが良いという訳ではありませんが、そのようなことがないよう十分に留意の上、教育委員会には対応していただきたいと考えています。</p>
司会（市長政策室長）	<p>市長からご意見をいただきましたが、この辺りにつきまして資料2や資料3の感染防止の観点からの学校における対応について委員の皆様からのご意見をいただきたいと思います。それではよろしく願いいたします。</p>
大塚教育長職務代理者	<p>資料の内容の確認になりますが、簡易テントで感染防止対策とは具体的にどのようなことでしょうか。</p>
教委事務局(学校教育部長)	<p>学校では、保健室でできるだけ発熱者を別にするために第二保健室を設置していました。ところが物理的に別の部屋がない場合、保健室の中に別ゾーンとしてテントを作り、他の方との接触をなくすようにしていたものです。</p>
大塚教育長職務代理者	<p>ありがとうございます。こちらの資料にもあるとおり学校現場ではコロナにならないために努力されて、いろいろな対策をとられたことがありまして、当初は消毒にすごく気をつかい、教員の方々も時間をかけて大変苦労されたということがありました。これが今は当たり前になっていますし、議題にあるとおりウィズコロナにあって安全ということが根付いてきていると感じております。</p>
教育長	<p>最初の頃はアルコールが足りないということがありました。マスクもなかったという状況でした。そのため、子どもたちも先生方もマスクの確保ですとか手作りしようとかいうこともあり、その上でアルコールも不足していました。私もその頃は学校にいましたけれども、市や教育委員会では何とか見つけて配布するなど、足りない中でもサポ</p>

<p>谷島委員</p>	<p>ートをしていただきました。簡易テントもそうですが特別な予算を組んでいただいたことで、学校としては慌ただしい中でもいろいろな整備ができたと感じています。</p> <p>いま大塚委員からもありましたが、この3年間でいろいろな感染防止対策が根付いてきました。その中でマスクに関して個人的な意見になりますけれども、マスクが子どもたちに与えた影響はかなり大きなものがあったと思っており、これからマスクの着用については政府が見直しを行っていくという報道もありますが、どのようにマスクを外していくのかという点については注目していきたいと思っています。やはり子どもたちは我々大人と違ってわりと受け身な立場ですので、先生から言われること、保護者の意向、他人や友達から言われること、それらと自分の気持ちを含めて考え、悩み、行動する訳で、トラブルなども想定されます。今後、行政や学校が明確な指示や指導をしていただき、さらに細やかな観察とケアをしていただきたいと思いますので意見として申し上げます。</p>
<p>小池委員</p>	<p>コロナが最初に発生してから3年という中で、良い面といいですか、コロナによってGIGAスクール構想が進み、ICTを活用した教育が進んできているということがあります。また昔から、外から戻ったら手洗いうがいをしましょうと言われておりましたが、コロナの影響により普通に消毒もしますし手洗いうがいが当たり前になっています。ではマスクの影響はというと、子どもたちは目だけで相手の顔色、気持ちを伺わなければならず、今後、子どもたちが成長していく中で、地味ですが影響を受け、人の感情を読み取る能力に影響がでないかと心配しています。</p>
<p>矢野委員</p>	<p>コロナ禍の3年間を振り返って教育も大きな影響を受けたと感じています。終わったわけではなく新たな変異株がまん延することも考えられます。ただ、この3年間を経験して、今後を予想しながらどのように対応すべきか気にかけていなければならないと思います。</p> <p>これは国の方針でしたが、1年目は一番大切な一学期が一斉休校から始まりました。小学校1年生、中学校1年生は新たな学校環境に慣れる2か月間がなかったわけで、現場の先生からは落ち着くまでに時間がかかったとお聞きしました。</p> <p>私が一番心配しているのは不登校問題です。コロナの関係で、保護者も感染回避を理由に無理に学校に行かせたくないということもあり、登校に関する意識が子どもも保護者も変わってきているのではないかと心配しています。はっきりした理由がなくても登校させない、したくない、登校させなくても良いのではないかという意識が変わってきている子どもや保護者が増えているのではないかと感じています。昔は学校に行くこと、行かせることが前提だったのが、今は行かなくてもよい、登校刺激を与えないような雰囲気が広がっている点を心配に感じています。</p>

<p>司会（市長政策室長）</p>	<p>ありがとうございます。矢野委員からは子どもたちの内面への影響という所で発言がございました。学校行事に関しまして国による5類への見直しの議論がどのように進むのかが大きく影響してまいります。今後は国の検討状況も注視しながら学校現場でも対応していただきたいと思えます。</p> <p>続いて先ほど30日を超える長期欠席の資料をご説明いただいたところでございますが、全てコロナによる影響とは言い切れなかとと思えますが、子どもたちの内面への影響について掘り下げていただければと思えます。この点について市長いかがでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>資料5をみると長期欠席が令和3年度はかなり増えている。先ほど話のあったとおり、学校に行かなくても良いと考える方が今後増えてくるとも心配されます。また、マスクをつけるかどうかも上尾市だけで決められる話ではなく、保護者の考え方もあり、国県の指導も大事だと思っています。マスクをつけることによって顔の表情が見えませんが、先生や子ども同士でも考えていることが伝わりにくくなっていると思えます。一方で今の時期であればマスクを着けていた方が温かいとかコロナとは関係なく顔が隠せるから必要だという方もいるように聞きます。それはそれとして、誰しもが早く通常の状態に戻ってほしいと考えているものと思えます。いずれにしても国の5類移行の議論を注視しながら対応していきたいと考えています。</p> <p>先ほどの説明にもあったとおり、年間30日を超える長期欠席が大変増えている。全てコロナによる影響だけとは言い切れないということですが、コロナ禍となったこの期間に急激に増えているという事実があります。</p> <p>不登校やいじめの問題については、これまでも総合教育会議で取り上げています。前教育委員の中野先生からもご自身の経験を踏まえ、教育センターのあり方、地域との関わりなどいろいろとご意見をいただきました。</p> <p>私も先日、教育センターに足を運び、不登校児童生徒の現状や教育相談の活動、そこに来られる子どもたちの様子などについて、センター職員から報告を受けました。</p> <p>感染回避を理由とした長期欠席が令和3年度から新たに加わったことが1つの増加理由としては明らかです。また、それに加えて不登校の理由の内訳では「無気力・不安」が大きく増加しているということでした。さらに、前年度から継続した長期欠席よりも、新たに長期欠席となる子どもの方が多いという話も伺いました。</p> <p>新型コロナウイルスという環境の変化、それに起因する児童生徒のストレスというのは目に見えるものではありませんが、日ごろから子どもたちの様子に目を配り、ちょっとした変化を見逃さずに、それぞれにあったアプローチによって、新たに不登校になることを未然に防ぐこと、休みが長くなる前の早い段階での支援が特に重要ではないかと考えています。</p>

<p>司会（市長政策室長）</p>	<p>市長から未然防止や早い段階での支援の話がありました。 資料5ですと、令和3年度までの実績となっていますが、直近の状況を分かる範囲でご報告いただきたいのが1つ目、また、不登校に関して、先ほど不登校対策推進委員会を新たに設置したとご説明いただきましたが、その具体的な取組状況なども併せてご説明いただくことは可能でしょうか。</p>
<p>教委事務局(指導課長)</p>	<p>直近の不登校の状況についてご説明いたします。令和3年度は小学校が87名、中学校が257名でございますが、今年度に入り12月末現在で小学校が123名、中学校が305名と、この時点で昨年度の数を大きく上回っている状況でございます。 続きまして上尾市不登校対策推進委員会の活動でございますけれども、コロナ禍以前から不登校の増加傾向であることを受け、本市としても対応が必要であるということで、今年度から上尾市不登校対策推進委員会を設置し、既に7月と10月の2回実施しており、今回は2月に開催を予定しております。今年度の取組の主な内容といたしましては、上尾市として不登校対策の具体的な方策の方向性を示す基本方針を策定することとしております。今年度に基本方針を策定し、来年度以降は基本方針を踏まえた具体的な取組を検討、実施してまいります。基本方針の中身でございますが、未然防止の重要性、早期発見・早期対応、不登校になってしまった場合の状況に応じた多様な支援、これらを踏まえた取組が柱となると考えております。以上でございます。</p>
<p>司会（市長政策室長）</p>	<p>ありがとうございます。先ほどの市長の話ですとか、ただいまの事務局から基本方針策定に向けた取組状況などについて報告がございました。こちらにつきまして委員の皆様のご意見を伺いたいと思います。</p>
<p>大塚教育長職務代理者</p>	<p>先ほどマスクの件がありましたが、マスクによって顔が隠れていますので、新しい友達を作るなどのそれぞれの人間関係が今までのように築けていないといった影響があるのかなと思います。そういったところで学校に行く楽しみがなくなってしまうと不登校にも影響しているものと思っています。</p>
<p>内田委員</p>	<p>不登校が増えているのは心配です。私も大学4年生の娘がおりますが、緊急事態宣言で学校に行けなかったときは友達ができなかったということで、すごく影響を受けておりました。大学に行っても友達がいないからという話もよく聞きました。それを考えると今の中学3年生や小学校の3年生はどれだけその時に友達ができたか、スタートの段階でどれだけ友達を作ることができたかということを考えると、その影響がとても大きく出ていると思います。また、マスクも大変影響があると思います。先生や友達の顔を見て、怒っているのか笑っているのか分からない。そういったことを考えると友達作りが難しくなっているのかなと思います。「明日またね」と挨拶して次の日の学校を楽しみ行くのと、友達がいないのでは全く違います。これからマスクを</p>

	<p>どのように外していけるか、せめて体育の授業の運動する時間だけでもマスクは外しましょうとか、そういう機会を設けないと子ども同士のコミュニケーション能力が上がっていかないのではないかと思います。できましたらそうした機会を設けていただければと思います。また、付け加えるとすれば、今年の第7波の時に、身内がコロナに施設内感染し、罹って5日で亡くなりました。コロナに感染している方が増えていますが、日頃から一人ひとりの健康の大切さについて考えました。そう考えると子どもたちもきちんと睡眠をとる、栄養をとる、適度な運動をするといった体作りが大切ではないかと思ったところです。</p>
<p>司会（市長政策室長）</p>	<p>ありがとうございます。他にございますでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>先ほど教育センターの話を少ししましたが、私も教育センターに行って所長や担当職員に話を聞きました。その中で不登校の理由では「無気力・不安」が突出しているということでした。何故こうした「無気力・不安」が増えているのか、そこを解消しなければ不登校問題は解消しないと感じています。</p> <p>また、スクールソーシャルワーカーを増やしたことによって相談件数が大きく増えています。これは対処ということになりますが、先ほどの説明でも未然防止に取り組んでいきたいという話があり、これには期待しております。</p> <p>以前、中野前教育委員が話されていたのは、子どもが登校するのが遅れて正門が閉まっていると学校に入りづらいとか、失敗とか嫌な思いをして登校しづらい子がいるので朝の登校時のサポートをきちんとやった方がよいということをおっしゃっていました。</p> <p>少し休みが多いという初期の段階で連絡を取りながら家庭を訪問するだとか声掛けをすとか、親とよくコミュニケーションが取れるとよいと思っています。未然防止に関してはいろいろな角度からの取組に期待していますし、職員の方も未然防止や早期対応の重要性はおっしゃっていましたので、一度、皆さんとも話を直接できるとよいかと思えます。だいぶ前に「心と心がつながっていますか」という話を聞いたことがあります。親と子がいつでもつながっている安心感、子どもが自信を持てる過程を踏んでいるかが大切だと思います。</p>
<p>大塚教育長職務代理者</p>	<p>表情が見えないというところからの不安はあるかと思えます。子どもたちが自信を持つこと、自己肯定感を高めることは重要です。先生が言葉に出さなくても表情で褒めてもらえたと感じられていたものが、マスクで分かりづらいということも不安にもつながっていると思います。今後、国がどのように方針を示すのかは分かりませんが、口元まで見えて表情がよく分かるような形となることが、子どもたちの自信や自分を認めてもらえると感じることにつながるのではないかなと思います。</p>

内田委員	<p>声の出し方でも変わってくるかと思います。大きな声でしゃべってはいけないではなく、子どもたちが大きな声で笑えるということは大変な活力になります。合唱祭などで大きな声で歌うことができるということもとても良いことだと思っています。</p>
教育長	<p>音楽の先生の話では、クラスで大きな声で歌が歌えるというのは友達同士で信頼感があるからだということです。信頼感があれば自分をいくらでも表現することができます。そういう中で様々な人間関係を築き、いろいろと培われていく訳ですが、今はそれを阻害しているのがマスクであって、また、お互いに大きな声でしゃべってはいけないとか、皆で集まることを制限してきました。学校でいうならば、学校行事を再開したときの子どもたちの表情は良かったので、学習以外で、友達と一緒に何かを作り上げていくということを、再開できるものは再開していった方が良いのかなと思います。</p> <p>また先ほど市長の方から未然防止の話がありました。これはすごく大事なことです。また先日、未然防止と併せてチームで対応するということが大切だということをご指導いただきました。担任だけでは対応できませんしクラスの友達だけでも対応できません。ご両親だけでも対応できません。その時に別の第三者や学年の中でも担任ではないその子と話ができる別の先生が入って対応するようなことが少しでもできると良いかと思っています。</p>
市長	<p>大事なことだと思います。学校の勉強以外のことの中にも、対人関係やコミュニケーション、子ども同士の仲間づくり、学校での体験学習や自治会活動、親父の会などといった地域や大人との交流での体験は大事だろうと思います。子どもの頃からの体験で人との交流をストレスと感じないようにすれば、大人になったときにいろいろなことを乗り越えていけるようになるかと思っています。</p>
教育長	<p>子どもたちに聞いてみると、大人との交流が新鮮だという意見はよく聞きます。学校現場や地域などでこれから大人と子どもが交流する機会を再開できてくると、少し状況は良い方向に変えられるのかと思います。</p>
司会（市長政策室長）	<p>他によろしいでしょうか。今回は「ウィズコロナにおける本市の学校教育」をテーマに幅広い内容について意見交換をさせていただきました。これまでの全体を通して、市長いかがでしょうか。</p>
市長	<p>今回、新型コロナウイルスの影響が長期化する中で、ちょうど3年ということで意見交換をさせていただきました。</p> <p>市としても、この間、新型コロナウイルス対策室の設置やワクチン接種体制の構築ですとか、感染防止対策、再三にわたる市内事業者への支援や市民への直接支援など様々な取組を行ってまいりました。また、教育委員会におきましても、様々な感染防止対策を講じながら、学校教育活動にあたっていただいています。</p>

	<p>これから、国が新型コロナへの対策緩和の検討に着手ということで報道されております。イベントや行事は、ここ数年、中止や縮小してきたものが再開できる可能性が広がっております。</p> <p>これは学校現場に限りませんが、先ほども申し上げましたが、従前のおりに戻すだけでなく、見直す機会と捉えてより良いあり方を検討すべきだと思っています。引き続き、感染防止対策は行いながらも、児童生徒にとって必要なものは何か、子どもたちの学びや成長のためにどういう機会、あるいは体験を提供すべきかを踏まえて対応していただきたいと考えています。</p> <p>また、長期欠席の増加については、コロナ禍による人と関わる機会の減少、オンライン環境や登校自粛の考え方などに加え、今後の国の対策緩和は新たな環境の変化として、子どもたちへの更なる影響も懸念されます。学校、家庭、地域が連携して取り組む必要があると考えていますので、引き続き、ご協力をお願いします。</p>
<p>司会（市長政策室長）</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>今回、「ウィズコロナにおける本市の学校教育」という議題で意見交換をさせていただきました。期せずして先週末に岸田総理が「2類相当」から「5類」への見直しの検討を指示という報道が出ましたので、事務局もそうですが、教育委員の皆さんも戸惑いもあったかなと推察しております。</p> <p>今後、国の検討が進み対処方針が示されますと、社会全体として、また、教育現場におきましても、具体的な対応が求められることとなりますので、引き続き、国の動向を注視しながら、市と教育委員会双方でしっかりと対応していく必要がありますので、引き続き、ご協力いただきますようお願いいたします。</p> <p>この件に関しましては以上とさせていただきます、引き続き、議題の2その他に移らせていただきます。</p> <p>現在、教育委員会では学校施設更新計画基本計画の素案についてパブリックコメントを実施し、地域公聴会を実施しています。その辺りの状況について教育総務部からご報告をお願いします。</p>
<p>教委事務局(教育総務部長)</p>	<p>それでは別添の資料をご覧くださいと思います。</p> <p>ご案内のとおり昨年度来、市議会からの提言や市民からの意見を踏まえながら、現在、基本計画の見直しを進めており、昨年10月に素案を公表、今月の1月30日を期限にパブリックコメントを実施しており、さらには6地区において地域公聴会を開催し、現在、意見聴取を行っているところでございます。今後の予定といたしましては、聴取した意見をとりまとめ、検討を行った上、教育委員会での協議を進めるとともに、庁内における調整を行い、最終的には3月23日に予定されている教育委員会定例会において基本計画の改定について、審議・決定する予定としているところでございます。</p> <p>また、資料の下段に記載しているとおり、学校長や自治会長、PTA会長に対する意見聴取を実施させていただきます。最終的にそれらの意見を十分吟味した上で、改定案に反映したいと考えているところ</p>

<p>司会（市長政策室長）</p>	<p>でございます。報告は以上となります。</p> <p>ありがとうございます。この件については報告事項ということでしょうか。</p> <p>市長からコメントはございますか。</p>
<p>市長</p>	<p>学校施設更新計画基本計画の見直しについて教育委員会で検討していただいておりますが、今回の見直しに当たっては、未来の子どもたちのための教育的観点を見直し、検討を行うこととしております。現在、実施しているパブリックコメントや残すところ今週末までとなりました地域公聴会において、市民の皆様からいただいたご意見につきましては、反映できるものは反映した上で、子どもたちにとって、より良い教育の提供に資する計画が策定できればと考えておりますので、引き続き、ご協力をお願い申し上げます。</p>
<p>司会（市長政策室長）</p>	<p>ありがとうございました。続きまして次回の会議について事務局からお願いします。</p>
<p>事務局（市長政策室次長兼秘書政策課長）</p>	<p>次回の会議でございますが、来年度の夏頃を予定しており、定例教育委員会に併せて開催したいと考えております。時期が近くなりましたらご連絡申し上げたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
<p>司会（市長政策室長）</p>	<p>他によろしいでしょうか。特に無いようでございますので、これで議事はすべて終了とさせていただきます。皆様のご協力ありがとうございます。</p> <p>それでは、会議の閉会にあたり、教育委員会を代表いたしまして、西倉教育長からご挨拶を賜りたいと存じます。</p>
<p>教育長</p>	<p>本日は今年度第2回目の総合教育会議ということで畠山市長をはじめ市長部局の皆さん、そして教育委員の皆様のご出席いただきありがとうございます。</p> <p>コロナの問題がまだまだ引き続いているところです。先ほどお話があったように、また第9波が来るかもしれませんし、変異によってどういう状況になるか分からない中で、学校現場として日々の対応をしていかなければならない状況が続いています。</p> <p>それでも、それぞれの学校が単体で対応しているのではなく、皆で協力して教育委員会、市長部局と様々な連携をしていく中で対応し、いろいろな成果を上げている。それを糧として、学校としては、引き続き、しっかりとした対応をしてきたいと思っています。</p> <p>教育委員会の委員の皆様におかれましても、引き続き、大所高所から市の取組、教育委員会の取組を見ていただきながら、この場や教育委員会の場でご意見を頂戴し、よりよい学校教育、上尾市の教育を進めていけるようにしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>本日はありがとうございました。</p>

司会（市長政策室
長）

ありがとうございます。以上をもちまして令和4年度第2回上尾市
総合教育会議を閉会いたします。